PROJECT VISION

水戸のまちなか大通り等魅力向上検討協議会とは

■設立趣旨

水戸のまちなかは、人口、産業、文化、歴史、情報、交通、あらゆる面で広域水戸都市圏の中心でした。水戸のまちなかは、その歴史的背景、役割から、水戸としての「格付け」を決めたところでもあります。しかし今、その中心性が大いに損なわれ、衰退しつつあります。このままでは、水戸の街そのものの格付けの低下、イメージダウンに繋がり兼ねません。そこで、水戸のまちなかのシンボルであり、かつ中心的な存在でもある大通り（国道50号）等の魅力向上を目的とした「水戸のまちなか大通り等魅力向上検討協議会」を設立します。なお、この協議会は、国土交通省において令和2年度に創設される「官民連携まちなか再生推進事業」におけるエリアプラットフォームに位置付けます。

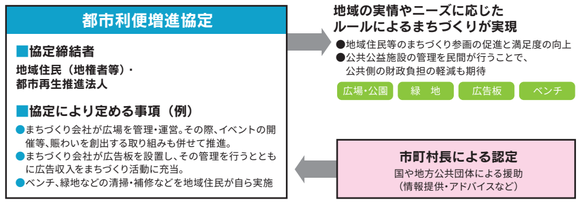
■検討内容

○水戸のまちなかの特性についての現況分析と課題、方向性の整理
○水戸のまちなかの特性を踏まえた目指す姿、エリアごとのビジョンや具体的イメージ
○エリアごとのビジョンを踏まえた、大通りや裏通りのあり方、方向性
○特に、居心地が良く歩きたくなるまちなか再生に向けた取組みの具体的イメージ
○以上、目指す姿等に向けた施策と役割分担、ソフト・ハード両面での具対策
○目指す姿等に向けたロードマップ 等

都市利便増進協定とは？

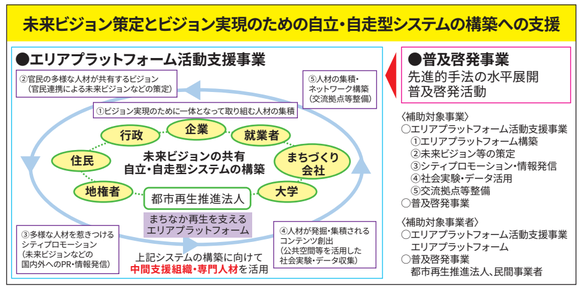
都市利便増進協定とは、都市再生特別措置法に基づき、地域のまちづくりのルールを地域住民が自主的に定めるための協定制度で、地域のエリアマネジメントを継続的に取り組む際に活用することが期待されます。地域住民(地権者等)同士※が締結したものを市町村が認定することにより、良好な居住環境の確保や地域の活性化等、地域主体の公共的な取組みを促進するとともに、市町村と適切に役割分担を図りながら、まちづくりを促進することが可能となります。

※土地所有者としての自治体や道路管理者も協定を締結することが可能です。



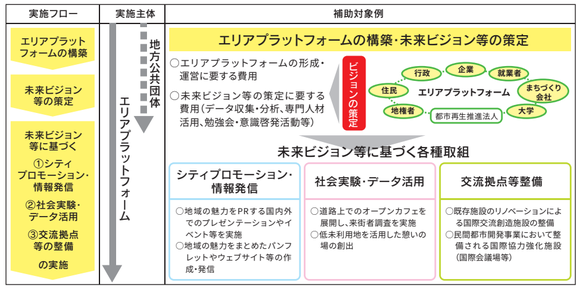
官民連携まちなか再生推進事業（国土交通省）

官民の様々な人材が集積するエリアプラットフォームの構築やエリアの将来像を明確にした未来ビジョンの策定、ビジョンを実現するための自立・自走型システムの構築に向けた取り組みを総合的に支援し、多様な人材の集積や投資を惹きつける都市の魅力・国際競争力の強化を図る事業です。

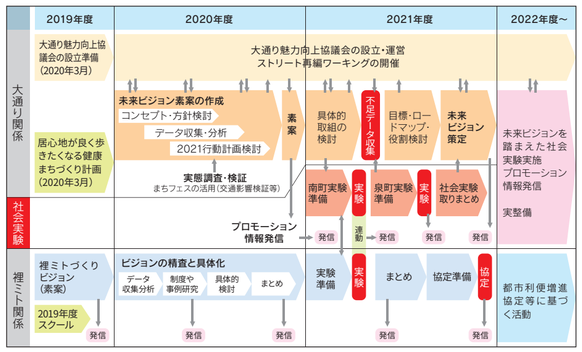


エリアプラットフォーム活動支援事業について

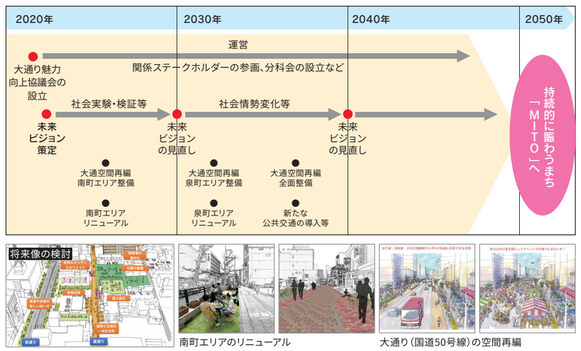
「エリアプラットフォーム活動支援事業」とは、エリアプラットフォームの構築において、「シティプロモーション・情報発信」「社会実験・データ活用」「交流拠点などの整備」の分野において支援する国土交通省の支援の枠組みです。水戸のまちなかでもこの枠組みを利用して活性化を図っていきます。



水戸のまちなか 2020-2021年の取組イメージ



2050年までの長期ロードマップイメージ



2020.3.23　Vol.04　発行：株式会社まちみとラボ　水戸市南町1-2-32 M-WORKビル　Tel.&Fax.029-388-1580　編集：TRIX MAG.編集部　協力：K5 ART DESIGN OFFICE.（MapiNavi編集部）

まちみとラボが提案する水戸のキュレート・ポータルサイト「TRIX MAG［トリックスマガジン］」

「TRIX MAG［トリックスマガジン］」では、まちなかで活動する各分野のキーマンのコラムやMapiNavi［マピナビ］編集部による特集記事を中心に、ピックアップイベントの紹介、今日明日・週末のイベントがピンポイントで検索できるイベントサーチ、バイリンガルの水戸の観光案内情報など様々なコンテンツをご用意しています。ぜひ、ブックマークしてみてください。イベント情報もぜひお寄せください。

タイアップ記事広告、バナー広告スポンサー募集中!／掲載イベント受付中! http://trix-mag.com/?page_id=325

http://www.trix-mag.com

スマホ対応!

ブックマークをお願いします!

水戸のまちを
もっと楽しむ

水戸のまちのIMAがわかるフリーペーパー

TRIX MAG. paper

MEDIA MIX FREEPAPER

http://www.trix-mag.com

VOL 04 2020 SPRING

TRIX MAG. paper はウェブサイトTRIX MAG.［トリックス マガジン］と連動して不定期発行するフリーペーパー。
TRI=3、X=10 で310=水戸を表し、水戸芸術館でもタワーのモチーフになっている10個の三角形をあしらっています。
アートや音楽、演劇、映画、ライフスタイルのカルチャーコラムを中心に、水戸のまちなかで行なわれる催しの情報を発信していきます。

裏通りからの水戸のまちなか再生に向け、昨年秋に始まった「裡ミトづくり勉強会」と「まちで起業スクール」。地域の方々のご支援により、それぞれに貴重な成果を挙げ、新しいステップへ！

エリアの環境改善と新規創業者の育成・空き物件の解消をセットで支援する取り組みとして、昨年秋にスタートした「裡ミトづくり勉強会」と「まちで起業スクール」。地域の方々のみならず、水戸市や水戸商工会議所の方々にもご参加いただき、今までにない取り組みが行われ、そして素晴らしい成果を上げることが出来ました。

「裡ミトづくり勉強会」は、南町２丁目商店街振興組合の若手（イーグル会）の方々を中心に参加頂きました。改めて「水戸の街」について学び直したり、まちなか再生に向けた「事業制度や事例」について学びながら、その一方でワークショップ形式で「まち歩き」を行い、私たちの街を再発見。その上で「街の課題」について考え、ビジョンづくりへ。水戸市内でも昼間人口が断トツに多いこの地域。大通りとの関係を気にしながら、多くの方にとって居心地が良く、そして歩きたくなる「場」づくり。そんな思いを、具体的な「絵」で表現してみました。

「まちで起業スクール」は、水戸のまちなかで起業し、地域と一緒に育ち稼ぐお店づくりを目指したい方を対象にした、今までの創業支援・起業家育成講座とは一味も二味も違う、より実践的・具体的な起業スクールを企画しました。理論的なことや成功事例の紹介といった表面的な講座ではなく、実際に事業に取り組み、悩み、苦しんだ、苦しんでいる起業家から、直接その苦労話やノウハウをお聞きする、スペシャルな講座です。前段で水戸商工会議所とタイアップした「空き店舗見学ツアー」を２回実施、その参加者が多いことから、水戸のまちなかの有するポテンシャルの大きさを再確認。そして、まずは４回の連続講義。「まちで起業すること」「お店づくり」「水戸でまちづくりを考える」「まちなかとお店」。郊外にポツンと立地するのではなく、商店街の方々と共にエリアの価値向上を目指すお店づくりを学びました。その上で、２回のワークショップ。「経営計画・事業計画を作る」「リノベーションと広報戦略」。素晴らしい商品、素晴らしいサービスを具体化するために求められる、プランをまとめる力とは。また、お客様に良いイメージを伝えるためのハード・ソフト両面でのデザイン手法を伝授頂きました。

締め括りは「ビジネスプランコンテスト」と「合同まち歩き」。商店街の方々と出店希望者が、エリアやお店づくりのビジョンを共有し、仲間意識を高める場づくりを進めました。

この半年間、裏通りを中心に事業を展開して参りましたが、一方で大通りの環境改善に向けた動きも始まりました。春からは、大通り・裏通りをまとめて改善・再生すべく、新たな活動を始めます。ご期待ください！

PROJECT REPORT

令和元年度の取り組み、そして新たなステージへ

令和という新しい時代を迎え、私たちは水戸のまちなかにおいて「裏通りエリアの環境改善」と「新規創業者の育成・空き物件の解消」をセットで支援する取り組みを始めました。その勉強会やスクールには、エリア内外のたくさんの方々にご参加頂きました。一方で、表の大通りを中心とした「居心地が良く歩きたくなるまちなか再生」の動きもスタートしました。私たちは、令和元年度の成果を踏まえ、水戸のまちなか再生に向けた新しい、大きなステージへ踏み出します。それは、大通りや裏通りを単に「道路」として見るのではなく、様々なアクティビティが展開できる魅力的な「場」に作り変える取り組みです!

南町2丁目南側の裏通りを中心としたエリアに関係する方々

株式会社まちみとラボ

起業・出店予定者

裡ミトづくり勉強会

裡ミトづくり勉強会は、水戸市中心市街地である南町2丁目の裏通りをターゲットに、商店街振興組合の方々と議論を重ね、具体的なビジョンづくりにまで漕ぎ着くことが出来ました。

4月23日、南町2丁目商店街振興組合の総会にて、商店街の方々に協力を要請しました。その後、若手の会・イーグル会や理事会への具体的内容説明と商店街の方々への開催案内配布を経て、10月8日に全体説明会を開催しました。「ビジョンそのものは幅広く考えたい」「皆で共有できるビジョンを」「エリアマネージメントで金を産む仕掛けを」等の意見が出されました。そして10月15日には『TRIX MAG.』を発行、より多くの方々に事業の概要を伝え、参加を呼び掛けました。

10月17日、ワークショップ「まち歩き」を開催。裏通りのみならず大通りも含め、このエリアが有するポテンシャルを確認しました。かつての「街角ルネッサンス事業」で整備した、大通りから裏通りへの抜け道が上手く使えないか。本来、地域に開放する目的で作られた西洋倶楽部の1階部分を使いたい。駐車場やお店の道路沿い部分に意外とスペースがあって使えそう…。11月1日には講義「水戸の街」を開催。水戸の街の素晴らしさを再認識しながら、私たちの裏通りの可能性についても考えました。

11月12日、ワークショップ「街の課題」を開催。「まち歩き」の結果や講義「水戸の街」で学んだことを振り返りつつ、このエリアを良好な環境とするために、保全すべき大切なものは何か。環境を阻害し取り除くべきものは何か。そして、足りないものは何か。皆で気になることをまとめました。裏通りの電柱は地中化できないか。通過交通は排除できないか。公園は整備できないか‥。11月26日には、街の課題解決のために、どのような事業制度や事例があるのか、水戸市都市計画課の方からお話し頂きました。

12月10日は、いよいよワークショップ「ビジョンづくり」の第一回。地図上に展開した街の課題を睨みながら、皆で大いに夢を語り合いました。二回目は1月14日。商店街の黒澤理事長より、地域内の大手企業勤務者のうち、マイカー通勤は25%程度に留まることも報告されました。バリアフリーやユニバーサルデザインは当然のこととして、ここで働く人たちが、思わず寄り道したくなるような、歩行者優先の居心地の良い「裡ミト」づくりを、私たちなりのビジョンとしてまとめました。

2月4日、商店街振興組合の理事会にて勉強会を開催。ビジョンの案について一通りお話しました。そして、南町2丁目商店街の今後の対応が決まりました。薄井副理事長を委員長、小山理事を副委員長とする特別委員会で対応すること。特別委員会は、全理事とイーグル会、市役所関係者、その他等が参加すること。ビジョンの具体化に向け、前向きに検討すること。これらを踏まえ、3月3日に特別委員会を開催。改めて、これまでの経緯とビジョン案について、また、国や水戸市の動き、そして令和2年度の事業展開についてお話しました。

裡ミトづくり勉強会

半年間に渡る勉強会を通して、商店街の方々の思いを具体的な「絵」にしたビジョンが取りまとめられました。この経緯を冊子にまとめ、今後、勉強会に参加出来なかった多くの方々にも伝えることで、都市利便増進協定の締結等、地域全体での環境改善に向けた機運の醸成を図りたいと思います。

TRIX MAG paper VOL 03 2019

MEDIA MIX FREEPAPER

2019年10月15日 TRIX MAG. paper vol.3発行
「水戸市中心街のフックに―。裏通りから表通り、そしてまちなか全体へ。」

大通りビジョン

裏通りビジョン

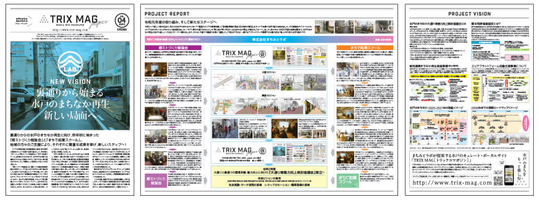
3月15日、ワークショップ「合同まち歩き・交流会」を開催。
商店街の方々と出店希望者が、エリアのビジョンやお店づくりのビジョンを共有し、仲間意識を高める場づくりを行いました。

合同まち歩き当日の午後、「水戸まちなかビジネスプランコンテスト」を開催。
「まちで起業スクール」の講師陣を中心とする方々に審査員をお願いし、水戸の街の新しい可能性を発見しました。

TRIX MAG paper VOL 04 2020

MEDIA MIX FREEPAPER

2020年3月23日 TRIX MAG. paper vol.4発行
「裏通りから始まる水戸のまちなか再生　新しい局面へ」



令和2年度
大通りと裏通りの環境改善、魅力向上に向けた『大通り等魅力向上検討協議会』設立へ

未来ビジョンの策定
（地域の特性の現況分析、地域の特性を踏まえた目指す姿、目指す姿に向けた施策と役割分担、目指す姿に向けたロードマップ、等）

社会実験・データ活用の実施　シティプロモーション・情報発信の実施

まちで起業スクール

まちで起業スクールは、通常の起業系・創業系の講座とは大いに異なり、実際に起業してから直面する様々な課題解決策についてより実践的に学ぶ場。起業し、そして「続く」ことに重点を置きました。

まちで起業スクールの開講に先立ち、水戸商工会議所との共催で「水戸まちなか空き店舗ツアー」を、7月15日と11月4日に開催。当日は、水戸商工会議所のスタッフから商圏情報や商店会情報、創業支援情報などを提供頂き、また香陵住販や建築士の方にも同行、説明頂きました。多くの専門家と一緒に歩くことで、参加者からの質問に対し、的確な対応が出来ました。「説明が分かり易く、イメージがし易かった」「実際に空き店舗物件を見ることができ、新しい発想やプランが浮かんできた」等、好評でした。

11月22日にスクール開講。最初の講師は「グロービス経営大学院茨城水戸特設キャンパス」のリーダーであり、また「いばらきスポーツタウン・マネジメント」の代表でもある川崎篤之氏による「まちなかで起業すること」。なぜ起業するのか、なぜ水戸なのか、なぜ今なのか。志の大切さを学びました。2回目は「お店づくり」と題して、水戸のまちなかで10店舗もの服飾店を経営する「アットワーク」の杉浦時彦代表と、居酒屋「ニューもっさん」など5店舗もの飲食店を経営する「グローリー・アイ」の井川智司代表の豪華なダブルヘッダー。業種は違えど、お二人とも「好き」を如何にビジネスに変え、自分色に染めることが出来るか、と語っていました。

3回目は、まちみとラボの三上靖彦代表によるまちづくり論「水戸でまちづくりを考える」。水戸を元気にすることが、茨城の元気、茨城の魅力向上に繋がること。水戸の歴史は、多くの人が思っている以上に誇りに出来ること。そして、街を使い倒すことの大切さ、などを学びました。4回目は、同じく三上靖彦代表による「まちなかとお店」。まちなかでお店を始めること、これは団体戦です。一つのお店が一人勝ちしても、それだけでは長くは続きません。一つひとつのお店が集まって、一つのエリアを形作っています。まちなかで起業し、お店を続けるための、エリア全体での勝負について学びました。

年が明けた1月26日の第5回目は、ワークショップ「経営計画・事業計画を作る」。講師は元水戸信用金庫の金融マンで現在は登利庄の平松良崇代表と水戸商工会議所の天下井博充さん。お二人とも、事業計画が優れていても事業が成功するとは限らない、と言うことを百も承知。経営計画の作り方や事業計画の作り方と言った、教科書的な基本を押さえることはもちろん大切ですが、さらにその上の、より実践的な、本当の意味での「役に立つプランニング」とは。成功例と失敗例を数多く見てきた元金融マンと、たくさんの創業を手助けしてきた商工会議所スタッフから、そのノウハウを伝授頂きました。

2月1日のスクールの最終回は、一級建築士の石井邦明さんによる「リノベーション」とグラフィックデザイナーの甲高美徳さんによる「広報戦略」。せっかく素晴らしいプラン、素晴らしい商品、素晴らしいサービスを提供しようと思っても、それをお客様に良いイメージで伝えることが出来なくては、売り上げには繋がりません。空き店舗を、お客さんにとって居心地の良い空間にするリノベーション手法とは。また、チラシ一枚でお客さんのハートを鷲掴みにする広報戦略とは。どちらもデザイン論ですが、デザインを考えることは、事業プランを考えることに等しい、とのこと。デザインは、事業の本質を形にしたものである、と。

まちで起業スクール

とても評判の良かった「まちで起業スクール」。
提供された資料や講義内容をテキスト化し、令和2年度以降も起業家育成、水戸のまちなかの再生に活かしていきたいと考えています。